

国際会計人材ネットワーク 第1回シンポジウムの開催

2016年6月に閣議決定された『日本再興戦略 2016』では、「国際会計人材の育成」について、関係機関等と連携して、IFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材のプールを構築することが記載されている。

当財団では、市場関係者から構成された「国際会計人材プールに関する検討会」における検討を経て、以下の目的等を踏まえて国際会計人材ネットワークを構築し、このネットワークの登録リストを本年4月に公表した。

- 「日本再興戦略」を受けて、IFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材及びIFRSに基づく会計監査の実務を担える人材等の育成が必要である
- 企業、会計士、証券アナリスト等、それぞれの分野・立場で国際的な会計実務に精通した人材が、各分野・立場の垣根を越えて交流・意見交換を行うための場を設けることは、我が国全体の会計・監査に関する議論の質の向上に極めて有用である
- 国際会計人材として活躍したいと考える個人のキャリア形成をサポートする
- 国際会計人材の「見える化」を図り、こうした人材の活躍の場を広げることで、各分野の業務（財務諸表の作成・分析、会計監査、会計基準の策定等）の円滑化・品質向上に貢献する
- 上記を通じて、関係者の協力により我が国の会計基準に関する国際的な発信力の強化、我が国の会計・監査の信頼性確保につなげる

同ネットワークには、現在、754名（企業の役員・従業員56名、公認会計士・監査法人勤務者642名、証券アナリスト17名、会計基準設定主体の委員・研究員28名、官庁の行政官11名）が登録している。

このたび同ネットワーク登録者を対象とした第1回シンポジウムを2017年7月10日（月）にホテルニューオータニにおいて開催した。次ページ以降、同シンポジウムの概要について記載する。

1. 国際会計人材ネットワークに期待される役割	59								
FASF 理事長	<table border="0" style="font-size: small;"> <tr> <td style="padding-right: 5px;">かま</td> <td style="padding-right: 5px;">釜</td> <td style="padding-right: 5px;">かずあき</td> <td style="padding-right: 5px;">和明</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 5px;">いけだ</td> <td style="padding-right: 5px;">池田</td> <td style="padding-right: 5px;">ゆういち</td> <td style="padding-right: 5px;">唯一</td> </tr> </table>	かま	釜	かずあき	和明	いけだ	池田	ゆういち	唯一
かま	釜	かずあき	和明						
いけだ	池田	ゆういち	唯一						
金融庁総務企画局長									
2. パネル・ディスカッション 「国際的に活躍できる会計人材をめざして」	63								
3. 交流パーティー	68								



国際会計人材ネットワークに 期待される役割

FASF 理事長 **かま かずあき**
釜 和明



日頃は当財団の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。また、本日は、お忙しい中、「国際会計人材ネットワーク第1回シンポジウム」にご参集いただき、心より御礼申し上げます。本日のシンポジウムの主催者として一言ご挨拶させていただきます。

まず、「国際会計人材ネットワーク」の設立の経緯についてご説明させていただきます。

政府の「日本再興戦略2016」において、関係機関等と連携してIFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材のプールを構築するとされておりました。これを受け、当財団では、市場関係者の皆様とともに検討を行い、本年4月

27日に「国際会計人材ネットワーク」に登録いただいた方、753名のリストを公表しました。

「国際会計人材ネットワーク」は、「国際的な場で意見発信できる人材の育成」、及び「IFRSに基づく会計監査の実務を行える人材の育成」が必要との認識のもとで、分野や立場の垣根を越えた交流を行うこと及びキャリア形成のサポートを行うことにより、「我が国の会計基準に関する国際的な発信力の強化」及び「我が国の会計・監査の信頼性確保につなげること」を目的としています。

少し具体的にお話をさせていただきます。登録リストには、作成者や監査人、利用者として、様々な分野の方が登録されていますが、それぞれの立場で取り組まれる内容は異なると思います。

例えば、企業の経理・財務部門の従業員の方々におかれましては、会計人材として、会計の専門性だけでなく、業務遂行に必要な、海外とやりとりする語学力や、広く他者とコミュニケーションをとる能力なども必要となり、経営幹部となるためには、専門性を経営の視点と結びつける能力も高い次元で求められると思います。

これが国際的に意見発信することができる人材となると、企業内における知識とは異なる次元の会計基準の知識や技術力の習得が必要になります。

企業の方を例にとりましたが、このような国際的な会計人材を育成する上では、会計に関する理解を深めつつ、相手の立場・考え方を理解するための知識を蓄積し、感覚を磨いていくことが大切であり、これらの点は、アナリストや監査人の方々においても同様であると思われます。

今回のネットワークは、各分野で精通した方々にお集まりいただいております、相手の立場・考え方を理解するための絶好の機会であると思っております。

本日は、そういった考えのもと、第1回目のシンポジウムを企画いたしました。

金融庁総務企画局長の池田唯一様よりお言葉を頂戴したあと、2つのパネル・ディスカッションを行います。共通するテーマは「国際的に活躍する人材像」です。本日登壇いただく方々は、いずれも国際舞台で活躍されている方

ばかりであり、本日会場にお越しいただいた皆様、今後、国際的な場で活躍される上での参考になるお話を多数お聞きになれるものと思っております。

本ネットワークの趣旨をご理解いただいた上で、少しでも多くのもを吸収して帰っていただければと期待しております。

なお、シンポジウムのあとには交流パーティーを予定しています。各分野の垣根を越えた交流を実現したいと考えておりますので、なるべく他の分野の方とご交流いただければと思います。

ネットワークに登録された皆様方におかれましては、このネットワークの趣旨をご理解いただき、国際的に活躍できる会計人材を目指して研鑽を積んでいただきたいと思っております。また、この国際会計人材ネットワークの運営母体である当財団としましては、関係者の方々と協議し、皆様方からのご意見もいただきながら、皆様の研鑽に役立つ機会を今後も提供していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

国際会計人材ネットワークに 期待される役割

金融庁総務企画局長 いけだ ゆういち
池田 唯一



ただいまご紹介をいただきました、金融庁総務企画局長の池田唯一でございます。国際会計人材ネットワーク第1回シンポジウムの開催にあたりまして、一言申し上げます。

まず、はじめに、財務会計基準機構におかれては、「国際会計人材ネットワーク」の構築及び今回のシンポジウムの開催にご尽力をいただきまして、心から御礼申し上げます。

次に、会計基準を巡る状況について申し上げます。政府では、今般取りまとめられた「未来投資戦略2017」におきましても、国際会計基準(IFRS)の任意適用企業の拡大促進を引き続き重要な施策の一つとして掲げているところです。IFRS任意適用企業数は現在157社(7

月5日時点)、全上場企業の時価総額の25%まで増加しています。こうした中で、上場企業の会計実務はさらに国際化が進展しており、また、我が国上場企業等において使用される会計基準の品質をより高水準なものとしていくため、あるべきIFRSの姿についての我が国の意見をIFRSに反映させていくことや、国際的な動向等も踏まえながら、日本基準の高品質化を図っていくことがますます重要となっています。

IFRSに関する意見発信ということで申し上げますれば、この5月に、IFRS財団トラスティー会合が東京で開催されましたが、そのような機会に我が国の産業界、公認会計士、証券アナリストの方々が、会計の理論や実務に基づいて、IFRSのあり方についての日本の考え方を説明され、その結果、日本の考え方への理解が深まったとの声も聞かれるところです。

今後、IFRSが多様な地域・ステークホルダーの考えや実務を反映した真にグローバルな会計基準となるよう、産業界、公認会計士、証券アナリスト、さらには学会等からの多様な人材が、国際会計基準審議会(IASB)のボードやスタッフのメンバーとして、あるいは財務諸表作成者・利用者のフォーラムへの参画など様々な機会をとらえて、それぞれの知識・経験を活かして貢献いただくことが期待されるとこ

ろであります。

また、金融庁が、一昨年4月に公表しました「IFRS適用レポート」では、IFRSの任意適用に当たっての課題として、企業・監査法人における、IFRS等に関する知識・経験が豊富な人材の裾野の拡大といったことが掲げられています。

このように、国際的な意見発信の強化と国際的な会計実務の裾野拡大の両面から、国際会計人材の育成はきわめて重要な課題であり、「国際会計人材ネットワーク」は、このため、

- 企業、公認会計士、証券アナリスト、研究者等が各分野・立場の垣根を越えて交流する場を設けることで、
- 国際会計人材として活躍したいと考える個人のキャリア形成をサポートし、
- 各分野における業務の品質向上と我が国の国際的な発信力の強化を目指す

ものであると承知しています。

今後は、「国際会計人材ネットワーク」に参加された皆様の具体的なニーズ等を踏まえて、建設的で有意義なネットワークの運営が行われていくことを切に願うものであります。

本日は、企業、監査法人、証券アナリスト団体等の関係者の方々も多数おみえであると伺っております。関係者の皆様には、「国際会計人材ネットワーク」をはじめ、それぞれの分野におけるキャリア形成の取組みについて、中長期的な視点に立って、よろしく後押し・御支援をいただきますようお願いいたします。金融庁といたしましても、国際会計人材の育成に向けて引き続き必要なサポートを行ってまいりたいと考えております。

最後に、本日のシンポジウムのご成功、また、国際会計人材ネットワークの今後の発展を祈念いたしまして、私の発言とさせていただきます。